2016(平成28)年度　U-32 Young Officials' Camp 2016 参加報告書			
報告者	眞榮喜　工(埼玉県)	所属	関東ブロック　埼玉県
大 会 名	第92回天皇杯・第83回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会		
期　　間	平成29年1月7日(土)～1月9日(月・祝)		
会　　場	国立代々木競技場第一体育館・会議室		
講　　師	阿部　哲也 氏　/　宇田川　貴生 氏　/　片寄　達 氏　/　平　育雄 氏　/　安西　郷史 氏		
受 講 生	JBA推薦:男女トップリーグ担当者の中で32歳以下の者　※ブロック推薦との重複はブロック推薦枠に記載 小田中涼子(岩手)　富樫　彰子(宮城)　尾形　美紀(長野)　細田　知宏(東京) 漆間　大吾(東京) ブロック推薦:各ブロックより推薦を受けた32歳以下の者 政氏　拓留(北海道)　中道　凌平(秋田)　石垣　千彩(秋田)　土門　亮太(山形) 秋葉　智　(茨城)　大山　賢史(栃木)　眞榮喜　工(埼玉)　大川　尚　(千葉) 穂川　苑子(群馬)　武田　理輝(群馬)　青木太一(神奈川)　荻野　健　(山梨) 東條　輝正(東京)　上杉侑里子(東京)　管　祐介　(東京)　岩井　遥河(東京) 早川　貴章(新潟)　名取　駿　(長野)　野々村日希(岐阜)　井出　啓太(静岡) 高野　杏実(京都)　幡丸登志久(和歌山)　豊田　康平(島根)　柳田　雅人(山口) 砂川　卓嗣(沖縄) S級 4 名・A級 8 名・B級 18 名　(男性 23 名・女性 7 名)　計 30 名		
目　　的	①早い段階から国際審判員資格取得へのモチベーションを高める ②国内トップレベルの試合、審判、分析等に触れる機会を持つ		

1月7日(土)第二体育館第5会議室			
13:30	開講式	審判部長挨拶	阿部　哲也 氏
14:00～14:40	講義①	審判「早期育成」について	平　育雄 氏
		「ガイドライン」解説	宇田川　貴生 氏　/　安西　郷史 氏
15:00	観戦研修	皇后杯準決勝 JX － TOYOTA	R渡邊整氏　U1吉田憲生氏　U2大谷英紀
17:00～19:00	講義②	観戦試合ディスカッション 3POメカニクス	上田　篤拓 氏

1月8日(日)第一体育館第1～3会議室			
9:15～11:15	聴講	FADP 国際審判研修講義	内海　知秀 氏　/　橋本　信雄 氏
	昼　食		
12:00～	観戦研修	天皇杯準決勝 川崎 － 東京	R宇田川貴生氏　U1北沢岳夫氏　U2加藤誉樹氏
15:00～17:00	講義③	観戦試合映像研修	片寄 達氏　/　上田 篤拓氏　/　担当審判員
17:00～19:00	観戦研修	皇后杯決勝 JX－富士通	R山﨑人志氏　U1渡邊諭氏　U2北沢あや子氏

1月9日(月・祝)第一体育館第1～3会議室			
10:00～10:30	講義④	映像研修・語学研修	上田　篤拓 氏
10:30～11:45	講義⑤	映像研修・プレイコーリング	宇田川貴生氏　/　片寄達氏　/　上田篤拓氏
12:00～	閉講式	審判部長総括	阿部　哲也 氏
	昼食		
14:00～	観戦研修	天皇杯決勝　川崎－千葉	R小澤勤氏　U1片寄達氏　U2平原勇次氏

講義内容

【講義①】

平 氏より、本講習会の目的を、「国際審判員資格取得へのモチベーションを高めること」、また「国内トップの試合を運営するために、トップレベルの審判員がどのようなガイドライン、メカニクスを用いて、判定、そして解析し、より良いレフリングに繋げているかを感じること」と話された。また、自身のライセンスアップに於いての具体的な計画を立てることが重要であるとアドヴァイスを頂いた。

宇田川 氏より、「2016-2017シーズン 審判ガイドライン」として、以下の3点について解説をされた。

1.「悪い手・腕・肘の整理（Hand-checking 含む）」
2.「スクリーンプレイ」
3.「アンスポーツマンライクファウル」

また、ひとつのプレイを判定する際に、何故吹いたのか、何故吹かなかったのか、全てに説明責任を果たすことが必要。「なんとなく」ではなく、規則に照らして一つひとつを判定し、「リアクション」ではなく「アクション」を見極めることが大切だと話された。

【講義②】

観戦研修終了後、実際に起こったケースについてディスカッションを行なった後、上田 氏より3POメカニクスについての講義を頂いた。パワーポイントを用いて視覚的に解説をされ、目指すところは「誰と組んでも、見なくても3人が自然と連動して動けること」と話された。私自身、B3リーグの担当試合内でローテーションが上手くいかないことや3人の間にエア・ポケットが出来てしまうことがあった。今後はメカニクスの基本的なことをより徹底し、「3人で」一つひとつをしっかりと確認していきたい。

【聴講】FIBA Asia Development Plan

リオデジャネイロ・オリンピックの映像等を用いながら、内海 氏と橋本 氏による、コーチ目線と審判目線でのディスカッションが行われた。世界のバスケットボールの技術や世界の判定基準についてを多く取り上げ、手の使い方や肘についてはかなり厳しく取り締まられると話があった。

【講義③】

天皇杯準決勝「千葉ジェッツ ー アルバルク東京」の担当審判員3名を交え、試合の振り返り及び分析方法について講義を頂いた。初日にレクチャーのあった3POメカニクスを再確認しながらの解説で、クルーが如何に共通認識の下に試合運営をしているかが分かった。分析方法として、一つの事象に対して「誰が誰に何をして、その時のボールの状態」をしっかりと確認し、更にそこに至るまでの経緯を明らかにしていくことが大切だと感じた。この講義の中で上田 氏より「メッセージ」という言葉が多く用いられていた。ガイドラインを如何に「メッセージ」として選手やチームに伝えていくか、それが伝わっているかを感じながら判定することが大切。また、試合中に不測の事態が起きた後、当たり前のものを当たり前に取り上げ、如何にベーシックに戻していけるかという面での精神力も重要だとアドヴァイスを頂いた。

【講義④】

2つのケースを映像確認し、それに対しての自身の判定と処置・再開方法について英文で答えるという内容であった。日頃から、いろいろな場面を想定し、英語ではどのように答えるべきかを考えておく必要が有ると感じた。また日本語でも同様だが、極力競技規則に載っている言葉での説明が出来るようにしたい。

【講義⑤】

実際に一つの試合を迎えるにあたっての準備として、どのようなスカウティングをし、何をどの様にクルー間で共有・確認しているかについて、解説があった。プレイヤー、ゲーム、プレイ、メカニクスの把握事項や運営において必要な管理事項等。出来る限りの情報収集をし、様々な事態を想定して準備をする。しかし、あくまでも予測としての準備である為、あまり先入観として持ち過ぎるのもよくないこと。準備をした上で、試合にはフラットに入ることも重要だと感じた。

全体の感想

本講習会にて、映像を用いての試合分析方法など、今までにない新たな経験を多くさせて頂いた。その中でも特に、メカニクスの確かな理解に基づくクルーワークが重要だと感じた。誰が何処でどのようなタイミングで何を管理・判定するか。クルー間での共通認識があり、互いに信頼し合うからこそ試合を管理・運営することが出来る。競技規則に沿った根拠を持って一つひとつを判定し、選手やチームにどのように伝えていくか。目の前で行われているバスケットボールから何を感じ、どのように方向づけていけるかが自身の課題である。規則やマニュアルの理解といった基本的事項の徹底を改めつつ、語学力、家庭や職場環境、地元での活動、バスケットボールを知るということ等、常々求めなければならない。努力している「つもり」ではなく、より明確に活動するための「変化」へのきっかけを頂いた3日間であった。

最後になりますが、阿部審判部長をはじめ企画・運営に携わって頂いた日本協会の皆様、学生連盟の皆様には大変お世話になりました。また、本講習会への推薦を頂きました渡邊ブロック長をはじめ関東ブロックの皆様、北島審判長をはじめ、埼玉県の皆様には心より感謝申し上げます。有難う御座いました。